

25/26

活動報告書

ANNUAL REPORT



この1年の歩みと感謝

平素よりNPO法人 日本宇宙航空医療支援協会（JAMSA）の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

おかげさまで、本法人は2026年7月末をもちまして、設立2年目の活動を無事に終えることができました。

本年度は、教育・研究・広報・運用支援の各事業を通じて、国内外の有人宇宙開発に関わる主要な機関との連携を深め、昨年度の取り組みを大きく前進させました。

特に、民間宇宙飛行における医学認証・運用支援の基盤構築では、具体的な成果を挙げております。

これもひとえに、皆さまからのご支援とご指導の賜物であり、心より感謝申し上げます。

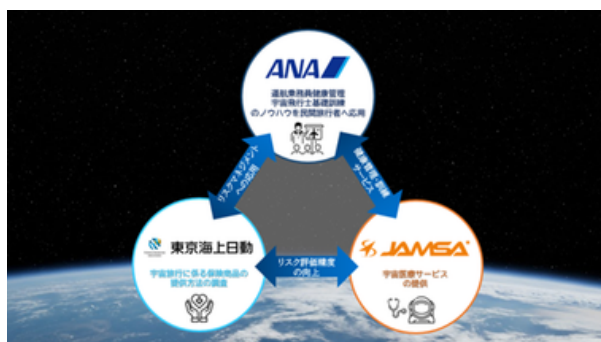
これからも国内外のパートナーとの連携をさらに強化するとともに、日本人の宇宙飛行を支える医療体制の構築を通じて社会に貢献し、その成果を未来へとつなげてまいります。

活動と成果のご報告

(1) 支援事業

国内外の有人宇宙関連企業と医療支援の在り方について意見交換を行い、連携を深めました。

- ANAホールディングス、東京海上日動火災保険と、宇宙旅行に係る市場調査やリスクマネジメントに向けた協業に関する覚書を締結しました。



出典：ANAホールディングス プレスリリース（2026年6月4日）
<https://www.anahd.co.jp/group/pr/202606/20260604-2.html>

- 会員医師をVirgin Galactic認定航空身体検査医として輩出するなど、サブオービタル飛行に参加する日本人宇宙旅行者の医学支援・健康管理基盤の構築を進めました。



- SpaceX（Space Exploration Technologies Corp.）およびVast（Vast Space, LLC）のメディカルチームと、将来の日本人ミッションを想定した具体的な協力体制について協議しました。

活動と成果のご報告

（２）調査研究開発・教育・広報事業

国内外の宇宙医学教育・研究機関との人的交流を通じて、人材育成や共同研究実施のための調査を行い、成果を発信しました。

- 宇宙医学を志す米国の若手医師を対象に、5日間のJAMSA Study Tourを計2回開催しました（2026年4月：現地参加者1名、6月：現地参加者2名・オンライン参加者3名）。本ツアーは、テキサス大学医学部ガルベストン校宇宙医学プログラムの正式な単位として認定されました。
- 理事4名がカリフォルニア大学ロサンゼルス校宇宙医学部門を訪問し、宇宙医学教育および民間宇宙飛行参加者の医学基準について協議しました。
- テキサス大学医学部ガルベストン校が主催する宇宙医学短期研修に、会員1名が参加しました。
- キングス・カレッジ・ロンドンの宇宙医学部門と連携し、現地調査および共同研究を目的として理事1名を派遣することを決定しました。
- 筑波大学・杏林大学と、民間宇宙飛行参加者を対象とした研究の可能性について協議しました。
- 当法人顧問の弓倉先生を講師にお迎えし、フライトサーजनとしてのご経験をもとに勉強会を開催しました。
- 陸上自衛隊三宿駐屯地（衛生学校・部隊医学実験隊）を表敬訪問しました。
- 一般市民向けにホームページ、SNS等を通じて成果を発信し、宇宙医学の社会的認知の向上に努めました。

収支のご報告とこれから

収支報告

本年度の収入は、会費・寄付金等をあわせて1,753,466円、支出は事業費・広報費・管理費等で767,688円となりました。

詳細な決算書類については所轄庁への提出および公式ウェブサイトにて公開しております。

次年度に向けて

国際的に民間人の宇宙飛行が発展し、宇宙医学の重要性はこれまで以上に高まっています。JAMSAは、日本人の宇宙旅行を念頭に、適切で質の高い医療支援を実現するべく、引き続きさまざまな事業に取り組んでまいります。

皆さまのお力添えに心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

